

The Lung

神戸大学大学院医学研究科
呼吸器内科学

第3巻 第1号

発行:650-0017神戸市中央区楠町7-5-1

神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科

TEL:(078)382-5846 FAX:(078)382-5859

http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html

新年度のごあいさつ

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年の桜の開花は例年よりも早く、歓迎会の時期には葉桜状態でしたが、今年度も新たな気持ちで取り組んでいきたいですね。新年度を迎え、当科にも新たなメンバーが増えました。大寺 博先生と三輪菜々子先生です、どうぞよろしく御願いたします。また、新研修医や「たすきがけ」で2年目に大学病院で研修される研修医の皆さんが多数おられ、活気に満ちています。

准教授 西村 善博



3月以降喜ばしいことが二つありました。一つは緩和ケアチーム(小生がチーム長を務めています)とがん相談室が中心に多くの病院スタッフとともに催している緩和ケアサロン(プラネタリウムを用いた星空鑑賞会)が病院長賞を受賞し、表彰を受けました。さらに、喘息の研究会であるIAA学術集会で永野達也先生が基礎研究部門で最優秀賞を受賞しました。こいつあ春から縁起がいいわい!と、言いたいところですが、皆さんの地道な努力の成果だと思います。

今回お届けするThe Lungは9号目となります。皆様から暖かいご意見をたくさん頂戴しており、感謝いたします。

良質な呼吸器診療を目指して邁進しております。今後ともどうぞよろしく御願いたします。

目次:

ごあいさつ	1
コンベックス気管支鏡	1
新医局員紹介	2
永野先生がIAA Award最優秀賞受賞しました。	2



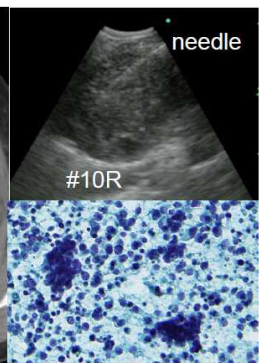
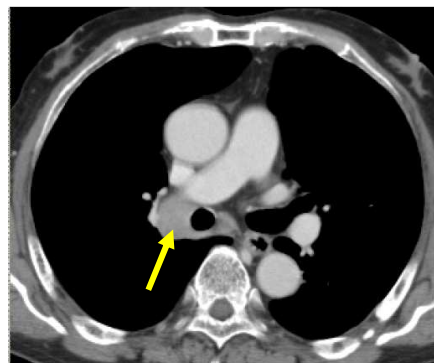
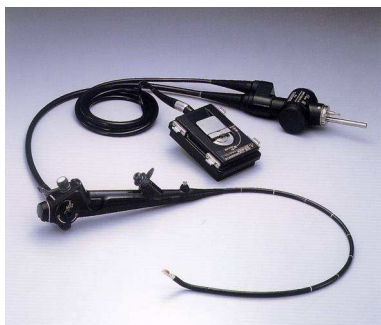
EBUS-TBNAができるようになりました!

気管・気管支周囲の病変に対して、これまで盲目的に経気管支針吸引生検(TBNA)を行っていましたが、このたびコンベックス走査式超音波気管支鏡(CP-EBUS)を導入いたしました。これにより、経気管支的に超音波で病変をリアルタイムに確認しながら、穿刺生検が可能となりました。適応病変は、気管・気管支周囲のリンパ節や腫瘍で、肺癌などの悪性疾患だけでなく、サルコイドーシスや結核などの良性疾患も高率に診断することができます。病変を確認しながら穿刺を行うため、安全かつ確実な診断法です。

助教 立原 素子



これで、ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)、仮想気管支鏡ナビゲーションシステム(Bf-NAVI)、CP-EBUSの気管支鏡検査の最新機器がそろい、ますます気管支鏡診断が充実してきました。私たち呼吸器内科医総出で丸となり、気管支鏡検査に取り組んでいます。通常の気管支鏡検査で診断が難しい病変など、どうぞご紹介ください。



右主気管支周囲病変(#10R)

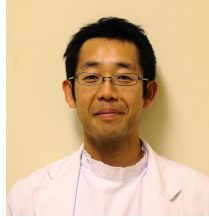
小細胞癌

新医局メンバー紹介

大寺 博 (H11卒)

ご無沙汰しております。この度、縁あって神戸大学呼吸器内科に戻って参りました。私は2007年3月に神戸大学病院呼吸器内科を退職したあと、西神戸医療センターで4年間勤務いたしました。そこでは結核病棟もあるため、肺結核を含めた呼吸器全般を診療しておりました。その後、前職である国立病院機構大阪医療センター感染症内科でHIVを中心とした診療をしてまいりました。そしてこの度、再度神戸大学呼吸器内科に戻ってまいりました。微力ながら皆様とともに、呼吸器診療の力になればと考えております。

今後とも、宜しくお願いいたします。



三輪(旧姓 富田) 菜々子 (H20年卒)

こんにちは。私は、臨床研修後の卒業3年目に神戸大学病院で1年間勤務した後、県立加古川医療センターで2年間勤務致しました。今年大学院生として神戸大学に帰って参りましたが、病棟の雰囲気や気管支鏡検査の方法が変化しており、2回目と言えど慣れるのに時間がかかっております。

個人的には今年の春に結婚し、毎日病棟と家庭の両立に苦戦しておりますが、病棟の先生方のお力添えにより何とか乗り切っている状態です。

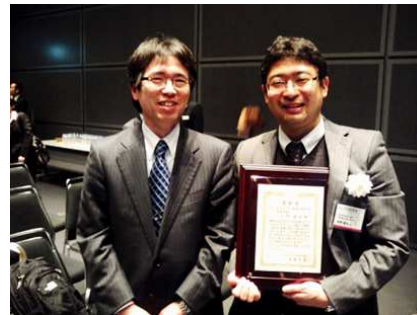
これからもどうぞ宜しくお願い致します。



IAA Award 2013 基礎研究部門最優秀賞を受賞して

医学研究員 永野達也

2013年4月21日に開われました第4回IAA学術集会にて、気道炎症に関する基礎研究の年間最優秀賞を受賞することができました。約3年間に渡ってリン脂質分解酵素であるPLCepsilonの気道炎症における役割を研究して参りました。この度、PLCepsilonが上皮細胞からの炎症性サイトカインの分泌を制御し、ヘルパーT細胞2型の免疫応答に重要な役割を果たしていることを発見し、気道炎症の有望な新規標的薬となりうることを報告させて頂きました。このような素晴らしい賞を頂いたのは、偏にご指導頂きました先生方のご尽力によるものと心から感謝の意を表します。当科では引き続きPLCepsilonの遺伝子改変マウスを用いて気道炎症の更なる病態解明、分子標的治療薬の開発に取り組んで参ります。今後ともご指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



The Lung

神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科学

電話 078(382)5846

FAX 078(382)5859

Email: <http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html>

肺がんから「せき」「息切れ」まで
何でもご相談下さい！



今年度の外来担当医をお知らせします。

3診	午前	初診 畠山	初診 小林	初診 徳永	初診 堀	初診 船田・寺下
	午後	肺癌 立原		間質性肺炎 船田	呼吸器一般 大寺	呼吸器一般 永野
18診	午前	肺癌 田村	呼吸器一般 西村	SAS 寺下(奇数週) 堀(偶数週)	呼吸器一般 小林	肺癌 立原
	午後	COPD・喘息 河		禁煙 新家	SAS 樋木	

種々の呼吸器疾患に対応させていただきます。
患者様のご紹介をよろしくお願いいたします。